米CPI、高水準続くも前月比では鈍化

ポイント① 13年ぶり高水準も前月比で鈍化

8月11日に発表された7月の米CPI（消費者物価指数）は、前年同月比で+5.4%と、コロナ禍が引き起こした供給網の混乱が続くなか、前月に続く約13年ぶりの高水準となりました。一方で前月比では+0.5%の上昇と、6月の同+0.9%から鈍化をみせています。また変動の大きいエネルギーと食品を除くコアの上昇も、前年同月比で+4.3%、前月比で+0.3%と、いずれも6月の同水準を下回り、インフレの上昇が「一時的である」という、FRB（米連邦準備制度理事会）の認識を支持する結果となりました。

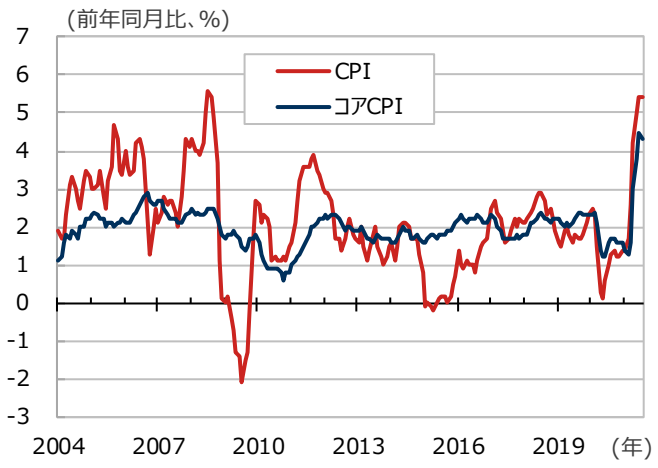
ポイント② 経済再開に伴う価格急騰が減速

CPIの発表元である米労働省は、7月のCPI減速について、「経済再開に伴う価格急騰が一部で収まり始めたため」との見解を示しており、とりわけ中古車、航空運賃、自動車保険などの前月比の伸びが小さかったことを鈍化の要因としています。他方で、供給制約や需要急増に直面する食品やエネルギー、住宅、新車などでは価格の上昇が続いており、人材採用難や原材料不足などの問題が継続していることを背景に、引き続き同分野では物価上昇圧力が続く公算が大きいとみています。

ポイント③ 早期の量的緩和縮小懸念が一服

市場では、CPIの前月比の伸びが鈍化したことで、先週6日に発表された米雇用統計で高まった、「早期の量的緩和縮小への懸念」が一服する形となりました。CPI発表後、米10年債利回りは小幅に低下したほか、日本時間では110円台後半まで円安米ドル高が進んでいましたが、米国時間で米ドル安に転じました。

米国の消費者物価インフレ率



期間： 2004年1月～2021年7月、月次
（注）コアCPIはエネルギー、食品除く
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米10年債利回りと為替の推移

期間： 2019年12月31日～2021年8月11日、日次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要イベント		
	8月13日	米ミシガン大学消費者マインド指数（8月速報）
	8月17日	米小売売上高、鉱工業生産指数（7月）

NOMURA 野村アセットマネジメント

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。